

## もの言う牧師のエッセー 第252話 「ポケモンGO Part2、善と悪のバトル」

世界中でトラブルが絶えないポケモンGOは「危険なゲーム」なのだろうか。行政や警察、地域や両親、学校や教会などは“禁止”或いは“制限”へと動き出すのか。実はポケモンの原作者である田尻智氏は熱心なアンチ・キリストである。なぜなら「両親が熱心なクリスチャンでしたので、とにかく幼少の頃より徹底的にしつけられました。口答えしようものなら、さらに厳しく服従させようと自分たちの教えを押し付けてきたものですからケンカが絶えませんでした。それで大人になった時、彼らが言うことがいかに馬鹿げているかを証明しようと考えたのです。私は自然崇拝者です。」

なるほど彼は虫が好きで、子供の頃は当時まだ自然が残っていた町田市の野山や小川で昆虫採集に没頭し、ついたあだ名が昆虫博士。それらは全てポケモンとその中に登場する多くのキャラクターを作る下地となった。そしてそれは自然崇拝という正に日本人の琴線に触れるものであり、多神教の土台であると同時に、豊かなアニメ文化や全国に溢れる“ゆるキャラ”などと同質のものと言って良い。「ですからポケモンは“反クリスチャン”ということになります。ある人たちは“悪魔崇拝”だとも。私は公けにそれを喜びはしませんが、彼らの言うことはわかります」とアメリカのゲーム誌「プレイ・フォー・リアル (Play4Real)」のインタビューで答える彼。これは、かつてタイム誌が掲載した牧師のコメント「ピカチュウは悪魔だ」を巡ってのものなのだが、かと言って、田尻氏は“世を滅ぼす”サタンの使者の類などではない。それどころか、この度の“ポケモン騒動”に一番心を痛めているのは彼自身のような気さえる。実は聖書には、この背景に空前絶後の神とサタンの戦いがあることが記されている。

**「主はサタンに仰せられた。『おまえはどこから来たのか。』サタンは主に答えて言った。**

**『地を歩き巡り、そこを歩き回って来ました。』」**

**ヨブ記1章7節、**

とあるように、サタンは彼の支配下である地を“行き巡り”、これといったターゲットを見つけると捕捉し、時にはこれを潰し、或いは他のキャラクター（人間）と戦わせ、またある時はこれを己のために育てたりする。「危険だから」と言ってポケモンやラインを禁止しようが、憲法9条の改正に反対しようが、フリーメーソンの世界支配を危ぶもうが、それらはみな“地を歩きめぐるサタン”が人々を神から遠ざけるために繰り出す小さなトピックに過ぎず、禁止しようしまいが我らは常にサタンの誘惑にさらされており、キリストを信頼しない者は難なく彼の手落ちてしまう。八工の様にウジャウジャいる彼の手下にいちいち関わっている間に泥沼にはまり込むのだ。だからこそキリストは勝つために命令する。

**「立て。さあ、ここから出かけて行こう。」**

**ヨハネの福音書14章31節：口語訳、**

と。キリストを信じ、力を受けたら、今度はこちらから世に出て行って善を行い、人を助け、福音を伝えるのである。サタンの徘徊には目もくれず、疲れている人や迷っている人を捕捉し、教え導き、共に戦えるようにする。これは英語で「ザ・グレート・コミッション」と呼ばれ、世に勝利するためにイエスがその信仰者たちに与えた至上命令なのである。 イエスも天から地上へ“出て行き”、さらに地上でも人々のいる所を巡回された。我らもこれからは「ゴスペルGO」で行こう。 2016-9-2

